

■短期派遣留学制度の充実

本学では、在学期間中に一度は留学を経験する機会を提供できるよう短期派遣留学制度の整備を進めている。

今年度はモスクワ大学への春季・夏季短期派遣留学を制度化し、夏季に1人が参加し、春季には9人が参加する予定となっている。

2009年から開始したUCLA Extensionへの参加者は22人。セゴビア市および国立通信教育大学への参加者は夏季が3人、春季が5人（予定）。昨年度から開始したアメリカ・インスティテュートには23人が参加する予定となっている。

来年度は中国への短期派遣留学制度開始を予定しており、全語科に短期派遣留学制度がそろふことになる。

■東日本大震災への対応

3月11日に東日本大震災が発生し、大きな被害を出した。本学ではこの大震災への対応として下記の取り組み等を行った。

- ・地震の影響で3月12日に実施した個別学力試験（後期日程）を受験できなかった受験生に対し、特別措置対応を行った。
- ・平成7年の阪神・淡路大震災発生時の本学の対応をホームページに掲載した。
- ・被災した地域の大学・短大に在学中で、震災のために神戸市および近隣地に滞在せざるをえなくなった方に対し、図書館の利用（資料の閲覧・複写・貸出等）ができるように対応した。
- ・被災した学生を対象に授業料・入学金の減免申請の受け付けを行った。
- ・関西電力及び神戸市からの節電要請（夏季15%）を上回る15.3%の電力使用量の削減を達成した。引き続き、冬季においても節電に取り組んでいく。

■大学評価への適合認定

財団法人大学基準協会の大学評価を受審した結果、本学は「大学基準に適合している」との認定を受けた。認定期間は今年4月1日から2018年3月31日までとなっている。

本学に対する提言にあたり、国際交流の取り組みや、高い就職率を維持していること、社会貢献として地域の小中高校に対する英語教育支援を積極的に行っていることなど、評価をいただいた。

■船山新理事長・学長が就任

2011年4月1日付けで、新理事長・学長として船山仲他氏が就任した。

就任にあたり「理事長・学長の役割とは、全体を見ながら、よりよい教育・研究活動ができる環境を整えていくことだと考えている。そのためには、それぞれの能力を遺憾なく発揮できるような環境づくりを目指していきたい」と抱負を語った。任期は、今年4月1日から2015年3月31日までの4年間。2012年度までの「第1期中期計画」の成果を継承するとともに、教職員の英知を結集し、「第2期中期計画」を策定し、推進していく役割が期待されている。

■キャリアサポートの充実

キャリアサポートセンターでは、学生のキャリア形成を広く支援するために、就職情報の提供や就職・進路相談を行っている。

企業では、グローバル化の進展を受けて、採用や昇進時に一定の TOEIC スコアを要件とするところが増えているため、同センターでは、今年度より支援の一環として、今年入学した 1 年生全員を対象（今年度については、学部生および 2 部学生全員も対象）に、TOEIC IP テスト（カレッジ TOEIC）の受験料を 1 回無償化している。

また、入学後早期からのキャリア形成を支援するため、キャリアデザイン講座の単位化を実施するとともに、前年を上回る 100 社を超える企業が参加する企業説明会の開催など、支援を充実させている。

■莫言氏特別講演会等を開催

7 月 25 日、中国文壇の最先端を行き、現代中国でもっともノーベル賞に近い作家といわれている莫言氏を招き、自身の文学について語っていただく特別講演会を開催した。講演会には、中国学科の学生、大学院生、一般参加者など約 120 人が参加した。



他にも、7 月にスペイン文学界で大きな注目を浴びている若手小説家サンティアゴ・パハレス氏。

10 月には本学卒業生で、中国の日本大使館に赴任し、丹羽大使の通訳秘書官を務める岡田客員教授。11 月には今枝客員教授による「ブータン王国の未来」というテーマでの講演会などを開催し、多くの聴講者を集めた。

■交流協定締結校の拡充

外国語・国際文化についての専門知識を学ぶ本学では、世界各国の大学との間で、交換・交流協定を締結し、学生交流を積極的に行っている。

今年度は下記の 3 校と交流協定を締結。今後も交流協定の拡充を図っていく。

- ・ 8 月 Augustana College (アメリカ)

少人数教育とリーダーシップの育成に重きをおく Augustana College は、リベラルアーツとサイエンスの分野で高い定評のある私立大学。

- ・ 11 月 Northumbria University (イギリス)

イギリスでも最も大規模な大学の一つで、留学生のサポート体制が整っており、世界各国から約 3,300 人の留学生が集まっている。

- ・ 12 月 東北師範大学 (中国)

広大なキャンパスに約 22,600 人が在籍する教育省直轄の大規模校。近年では学生の質が向上し、評価が高まっている。

■国際ヒマラヤ言語学シンポジウムを開催

9月6日から9日にかけて「第17回国際ヒマラヤ言語学シンポジウム」を開催した。同シンポジウムは、武内紹人組織委員長（本学教授、外国学研究所長）のもと、本学と東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所との共催で、日本での初めての開催となった。

スイス・フランス・アメリカ・ネパール・インド・シンガポールなどから第一線で活躍する言語学者たち約30人が来日し、日本人を合わせて約60人の研究者が参加した。会議ではヒマラヤの言語の問題をはじめとして、最新の研究成果が幅広く取り扱われた。



■全学での防火・防災訓練を実施

12月16日に防火・防災訓練を開催し、教員・職員・学生など約70人が参加した。

当日は、校内で火災が発生した状況を想定し、消防署への通報、学内放送による避難誘導、初期消火訓練等を実施した。消火訓練では、西消防署にも協力いただき、消火器や消火栓の使用体験を行った。訓練にあたり、非常時に備えての心構えなどもお話いただき、教職員・学生の防災意識を高めることができた。



■第1回大学生マーケティングコンテストを開催

12月17日、英語でのプレゼンにて商品の販売戦略の企画を競う、第1回大学生マーケティング・コンテストを本学の大ホールで開催した。

これは、ICC科目のひとつである「グローバルビジネス」の履修者を中心とする本学生の運営委員会が中心となって自主的に企画・運営を行い、全国の大学にも参加者を公募し、民間企業の協賛も得て実施したもの。応募のあった13校23チーム中、1位は東京大学。本学の学生も健闘し、3位入賞という好成績を残した。

